

大阪市立大学医学部医学科1年 山田陽南
清風南海高校卒業

合格ヒストリー

私は家庭環境などの影響により、小さい頃から、強く生きる女性の生き方に魅力を感じていました。そんな中、中学2年生の時偶然テレビで赤ちゃんポストを設置している病院の特集を見ました。そして、自宅で一人で出産したものの死産であった女性が、「ここなら赤ちゃんを供養してもらえると」考え、赤ちゃんのご遺体を赤ちゃんポストに置いたという事件を知りました。また、親戚に婦人科系の病気のある人が多かったことから、女性の一生に携わる産婦人科医を志しました。

私は高校時代、勉強、部活、行事、課外活動、遊びなど、全てをやり切って、現役合格することができました。これは一つには、中学2年生という比較的早い時期に医学部受験を意識し始め、数学と英語の基礎固めを徹底したことがあります。それ以外の科目でも、学校の授業に積極的に参加することを心がけていました。しかし、私が全力で高校生活を楽しみながら合格できたのは何よりも、環境を整えてくれた家族や、いつも真摯に向き合ってくれた学校の先生方を始めとする、周りの人たちの支えのおかげです。合格発表の時は、合格の嬉しさよりも周囲への感謝の気持ちで涙が止まりませんでした。

受験勉強をしていると、モチベーションを維持するのが難しい時もありました。そこで私はあえて自分が医学部を目指していることを友人に伝えたり、自分は医師の家系でもないのに医学部を目指して私立の高校や塾に行かせてもらっているんだということを再認識したりして、絶対合格しなきゃ！と自分にプレッシャーをかけていました。また、私は耳原総合病院の医師体験に何度か参加しました。医療機器の操作や現役の医師の方にお話を伺うなど、高校生ではなかなかできない貴重な体験をすることで、モチベーションを保つことができました。

冒頭で述べた事件のお母さんには、社会的な支援が必要でした。妊娠や婦人科系疾患は女性の人生に大きな影響を与える出来事ですが、女性にとってより生きやすい社会は医師だけでは実現できません。そのために春からの大学生活では、新たな価値観に触れるべく、医療以外のことも大いに学んでいきます。